科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））中間評価

課題番号	18H05218	研究期間	平成３０(2018)年度 ～令和４(2022)年度
研究課題名	尊厳概念のグローバルスタンダードの構築に向けた理論的・概念史的・比較文化論的研究	研究代表者 （所属・職） （令和２年３月現在）	加藤　泰史 （一橋大学・大学院社会学研究科・教授）

【令和２(2020)年度　中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、尊厳概念について多角的、総合的な視点から考察し、欧米圏中心に進められてきた尊厳概念理解と、非欧米圏、特に東アジアにおける「生命の尊厳」概念を架橋することでグローバルスタンダードを構築しようとする研究である。

国際ワークショップやフォーラム等を複数回にわたって開催し、それらの議論を踏まえた英語論文集『Kant's Concept of Dignity』及び日本語論文集『尊厳と社会（上・下)』を既に刊行するなど、着実に成果を上げている。前者は、カントの尊厳概念を多元的、総合的に解明する試みであり、後者は、生命・環境・法・政治・介護等の広範囲の問題に尊厳概念からアプローチする研究であることから、今後、理論的な理解の深化と実践的、応用的な展開双方が期待できる。